

道心



禅昌寺通信「道心」第25号
編集 日光山 禅昌寺「道心」編集室
発行 平成19年4月1日
〒732-0002 広島市東区戸坂山根3-2-7
TEL 082-229-0618 FAX 082-229-0822
E-mail : zenshoji@bronze.ocn.ne.jp
ホームページ http://www.zenshoji.org/

善悪の報い

修証義 第五節

住職 横山 正賢

「善悪の報に三時あり、一者順現報受、二者順次生受、三者順後次受、これを三時といふ。仏祖の道を修習するには、其最初より斯三時の業報の理を効ひ驗らむるなり、爾あらざれば多く錯りて邪見に墜つるなり、但邪見に墜つるのみに非ず、悪道に墜ちて長時の苦を受く。」

語句をそのまま解釈すれば、善悪の報いは三通りの現れかたがあるということです。これは善悪に限ったことではなく、全ての行為の結果の現れ方と受け止めても同様でありましょう。

一つには、いま行ったことが即座に結果が現れる、二つには、いま行ったことが数時間・数日・数年後と時間の経過を要する結果がある、三つには、自分の死後何世代も後になつて結果が現れるという因果関係を言っておられるのであります。

よくテレビなどで先祖のたたりが災いしているなどと、脅迫的な因縁話をしている場面を見たり、聴いたりすることがありますが、ここに言われる因果歴然とか、業報ということはテレビなどで脅迫感をおおるような因縁話とは本質的に異なる、因果の道理を説かれていることを理解して頂かなくては誤解を招きます。

この三時の業報の教えには、いろいろの捉え方があります。一日の内にも、朝つまずいて打ち身をした、痛い、あざが出来た、数時間後に腫れてきて歩行が苦しくなった、夜床に入つて

忘れていた打ち所が痛み出して寝られないという結果を招いて、あの時の一寸とした不注意が、などと後悔しても取り返しつかないと言つことも。一月の内にも一年の内にも、一生の内にも因果の報いは、偽りようのない事実としてあるのです。人間の道を諦めて生きることは、昔から言われるところの、三時の業報の道理を「ならい、あきらめて」人間の有り様を学ぶ用心を示唆されているのであります。

「しかあらざれば、多く錯りて邪見に墜つるなり、但邪見に墜つるのみに非ず、悪道に墜ちて長時の苦を受く」といわれることは、人間の死んでいく先のことを言っておられるのではなく、祖先より授かったこの命は、精神や意識の持ち方によつて善とも悪ともなる、人間の生き方の大事を言っておられるのです。私ごとで恐縮ですが、息子がこの人と結婚したいと言つて、いま一児の母となつている嫁を初めて私達夫婦に紹介したときに、「貴女は食べ物に好き嫌いはありませんか」と尋ねたら、「はいあります、納豆が食べられません」と答えてくれました。私は「それはいけません、納豆という食べ物には日本の食文化を代表する物であるし、主婦が食に対する偏見があると一家の健康を損なうことになりかねないから、嫁にくるまでに食べられるようになって下さい」と言つて結婚を受け入れたのです。

我が家では冷蔵庫に納豆が無いという日は無いというくらいですから、嫁も大変だったことでしょう。結婚して間もなくアメリカへ渡り四五年たった頃、私がアメリカの息子宅を訪ねたとき、嫁が「お父さん私いま頃納豆が大好きになりました」と言つたとき、嫁も横山の人となつたことを感じましたし、その後にアメリカで生まれ育つた孫が九歳になつて帰國した翌日の朝食に、「僕は何を食べる」と聞きますと、

「みそ汁に納豆、飯」と言つたときには、偏食を戒め常に健康的な食事をとることを家訓の如く躡てくれた、母の生き方が孫に伝わった喜びを感じました。

一方で私の父方の祖母は二十八歳で五人の子供を抱えて寡婦となりました。子育てを始めお寺の護持に大変な苦勞があつたことでしょ、その為か師範学校の教師から小寺の住職の妻になつた母とは折り合いが悪く、幼かつた私の目から見ても厳しい嫁いびりの一面があつたことを見ていました。

母はよく辛抱して七人の子育てをし、いびられながらも祖母からの家伝を守つていたように思います。そのことから学んだことは、食生活を始め生活習慣を通して、祖先の祈りや子孫に伝えようとされた思いを、私に受け継ぎ、子孫へと伝える義務を感じます。これを、押しつけではなく自然に伝承して行くことを考えさせられました。そう思いますと私の生き方は、嫁や孫に素直に受け入れられる生き方を、自らに問わなければならぬと心がけております。

孫に祖先の祈りや思いを伝承するためには嫁が子育てに専念できる環境を作つてあげることが、祖父母の立場の私や妻の役割が如何に大切かを考える生き方に気づかされます。祖先と私と息子や孫が過去・現在・未来という三世が一体になる姿を思います。

その今（現世）の己の生き方が問われ、この生き方の結果が、邪見に墜ち悪道に墜ち苦しみます。己の生き方に目覚めれば未来に安らぎを感じることも出来るように思います。

因果関係を科学的に実証する事は出来ませんが、信仰というものは、自分よがりになりがちな生き方を教えるに照らし、教える信じて疑わない純真さが大事であることを言っておられるように思います。

護持会総会を終えて

佐伯区 護持会会長 原 一彦

今年は暖冬が続いていましたが、去る三月十七日の彼岸法要の日は寒の戻りが厳しい一日でした。その寒さの中で百六十名を超える多くの檀信徒が集い、厳粛な法要に続いての護持会総会は重要な議案が多く、中でも説明がありました通り 平成二十二年(西暦二〇一〇年)五月七日から九日の退隠・晋山式へ向けての諸準備が今後の禅昌寺の最も重要な課題だと思います。

日本は予想以上に早く少子高齢化が進んでいます。これからはお寺も例外ではなく後継者が無くて廃寺・統廃合される寺が出て来ております。そのような時期にありまして、禅昌寺は三年後の平成二十二年五月に正賢方丈さんから泰賢さんに住職が禅譲されます。

檀信徒にとりまして誠にありがたい事だと思えます。

皆様もご存知かと思いますが禅昌寺のホームページによりますと、禅昌寺は元和元年(西暦一六一五年)奈良県の補嚴寺第七世蘭裔守胤禅師の弟子、東庵守陽禅師により広島市中区葉研堀に創建されましたのが始まりです。江戸時代は藩の重臣である藩医・

武術家・剣術家・書家等の菩提寺であり、禅の道場にもなっていたそうです。その後原爆にも遭遇し幾多の変遷を経て、昭和四十年には戸坂町くるめ木に、昭和五十五年には現在地に境内を移し再建されました。

方丈さんが二十三世で、創建から三百九十五年の節目の年に泰賢さんが二十四世住職に就任されます。

方丈さんは若くして住職として禅昌寺に來られて以来、お寺の復興・再興に幾多の苦難を経ながら全精力を注いで來られました。その間、広島県でも有数の格調のある

曹洞宗の寺として拡大されてきました。また檀信徒が集い易い開かれた寺を目指して色々な催しを実行しておられます。まさに、禅昌寺中興の祖であります。古希を迎えられましたがお心身ともにご壮健ですので、これからも檀信徒の心の支えとしてご活躍されることを願います。

泰賢さんは曹洞宗本山で厳しい修行をされて、曹洞宗宗務庁本部の信任も厚く布教活動の派遣でアメリカ・イタリア・フランス等の外国生活を長く経験されています。これからの時代のお寺は、従来のしきたり等を踏襲するだけではなくグローバル化が必要とされています。日本古来の良き伝統を重んじ、現在の時代要請・将来の展望等をも要求される時代となっています。

この様な時期に、泰賢さんは時代が求める最もふさわしい住職になられるのではないかと思います。

この度「日光山禅昌寺二三世退隠・二四世就任記念事業奉賛会」並びに事業計画案が承認されました。来る平成二十二年五月の住職退隠・晋山式法要に向けて奉賛会を中心に、奉賛事業の推進に当たり具体的な計画案が練られ檀信徒各位にご協力をお願いする運びとなっております。

未来永劫に続く禅昌寺が益々発展する為に新時代を築く心積りで、皆様と共に禅昌寺を護り支えていきたいと願っております。

台掌

この山に住して四十五年

日光山禅昌寺廿三世

禅峰 正賢

昭和三十七年五月当時広島市薬研堀廿一番地に在った禅昌寺に入山し、翌年六月十九日住職辞令を受けて今年四五五年になります。

私が入山したときの寺は原爆後に急造した仮建築の状態でした。

昭和廿九年四月当山廿二世正身住職が他界して九年間、戦後の混乱期を妻の養母横山カツヨが自らの私財を投じて廃墟の境内に貸家を建て、廿二世の遺児である妻の養育と禅昌寺の護持に精進しておりました。

当時の檀信徒は市内に六八戸、県外に十七戸、寺には是という固定収入もなく、寺の将来像が見えない状況にありました。寺の移転復興が完成した数年後に分かったことでしたが、昭和二六年先代住職の下で復興計画が檀信徒一丸となって進められていたのであります。先代正身住職が原爆症のため急逝し、翌年七月筆頭総代さんが同じく原爆症により急逝されたことにより復興計画は頓挫したのであります。

住職は当時すでに七二歳でしたから募金の会計は全て筆頭総代さんにお任せしてあったようです。

当時筆頭総代さんの事業は順調に繁栄していたかに見えていたようでありましたが、急逝された後は事業は破綻し、ご家族は離散されるという状況の中で、筆頭総代さんに一任されていた、集金された総予算の七〇八割の淨財も行方不明となってしまうのだそうです。

しかしこのとき檀信徒各家から寄せられました募金の記録は、私が受け継いだ古い書類を最近整理している内に発見し往事を忍ばせていただきました。資料は大事に保存しております。

遺された養母や妻、総代さん方は寺の将来を如何にするか悲嘆にくれる日々の中に、私は迎えられたのであります。

そのような状況にあることは何も知らされていなかった私は、お寺を復興するということは、自分の理想とする寺院の復興が出来ると言っ思いで一杯でした。私は将来の理想像を描く中で、お寺を郊外の閑静な山裾に移して檀信徒の方々がお寺へお参りされて静寂の中に心が洗われる環境を夢見ておりました。

昭和三八年秋、私の晋山式の準備の会議に



薬研堀禅昌寺晋山記念



被爆禅昌寺正門（村上涯子画）



昭和60年頃の禅昌寺全景



くるめ木移転地での起工式

責任役員、総代、養母、妻と関係者全員が集まっている席で私は「お寺を郊外に移して復興しては如何でしょうか」と唐突に発言しました。一同は誰も思いもつかなかった「移転復興」と言うことに啞然とされ暫くの沈黙のあと、総代さんの一人が責任役員であった私の師匠に「そんなことが出来るんの！」と尋ねられ、師匠が「そりや出来ますよ」の一声にその場にいた全員が「そうしやんしやうやー」という声は忘れぬことの出来ない一瞬でした。其れは前述の復興計画が頓挫して以来の関係者にのしかかっていた重荷が下ろされた一瞬であつたと言うこともあつてその時の「そうしやんしやうやー」の響きに格別な思いがあつたことを思うのであります。

禅昌寺復興から今日まで

移転復興する事を関係者より承認されてからは、月忌参り等仏事法要は月に数件という、二十五歳の私にしては毎日決まった仕事も作業も無いという状況は大変苦痛で自問自答する毎日でした。

そんな中で住職一代の内に伽藍の復興をするという一大事因縁とその責任の重さを考える毎日でした。

早速中古スクーターを買い求め格好の移転先を探す日々が続きました。

移転先選択の条件として、青少年の育成と檀信徒の精神的癒しの禅寺に相応しい環境と、バス停などからの距離が徒歩で十分以内に位置すること、建築は木造で等と理想を掲げておりました。

しかし住職してわずか二年の私の提案は理想に走りすぎると受け入れられませんでした。移転先の選定も建築業者の指名も私の思うに任せられず、私にとつて誠に不本意な移転先と業者が決定されました。

建築に当たっては只安く仕事をするということに重きが置かれ技術力などは二の次となつていたように思います。

建築中何度も私と業者の間で工事の進め方や材料の選定で対立があり、若干二十七歳の私の言うことなど聞き入れられなかったのであります。そうした中でどのようにしても意のままにならない寺の復興に、己の不徳に悔しい思いを募らせ、やり切れない気持ちで「何れ建て変えてやるー」と言う思いの中で不本意ながら、昭和四十年五月入山して三年で、現在の東区くるめ木に最初の復興をしたのであります。

復興後は幼児教育をと思つて、予定地まで確保していた幼稚園の開園は、当時の総代会では時期尚早と言うことで認められず悔しい思いを致しました。

移転復興した年の八月長男泰賢が誕生し、



くるめ木禅昌寺落成入仏式の日

翌年長男一歳の誕生日を記念して始めた坐禅会は今日も継続しております。

檀信徒の皆さんの復興への期待をかけられた浄財が破綻したことを知らなかった私は、財産を処分して復興したと言うことは、禅昌寺歴代の住職始め檀信徒各家のご先祖に対し申し訳ないという思いが、報恩行として、これからの禅寺としては是非とも坐禅堂を建立したいという願いをたて総代会での激しい議論の末、長老の一人が、「若い住職の情熱をどうすれば叶えてやれるのかを考えることが



ボーイスカウト広島第15団（昭和57年5月3日本堂落慶の日）

45年の道程

昭和37年	5月 廿三世入寺 9月16日 伝福寺一九世哲涯正純の法を継ぎ住職す
昭和38年	2月 禪昌寺復興計画第一回会議、移転復興に決定 10月 戸坂町西合谷五番地四号に移転を決定
昭和39年	5月 起工式、9月 墓地移転開始
昭和40年	3月 墓地移転完了 5月 入仏開眼法要 10月9日 落慶法要
昭和41年	3月 檀信徒護持会結成
昭和42年	1月1日 年頭参禅会開始 8月 書院裏築庭
昭和44年	11月 坐禅堂建設委員会準備会開催、12月 錬成道場建設後援会設立
昭和45年	1月 錬成道場着工、9月 錬成道場落成式、道心寮命名 4月 日本ボーイスカウト広島第15団結成 10月 一泊参禅会開始（毎月1回）
昭和50年	3月28日 松村敏明氏の後援を得て呉市押込町に分院並びに本庄霊園を建設起工す 7月27日 泰賢得度 12月 禪昌寺創建360年、移転復興10周年記念法要
昭和51年	10月 呉市押込町 分院本堂起工式
昭和52年	10月11日 分院を末寺観音山道心寺として設立
昭和53年	4月24日 再移転の為建設委員会発足
昭和54年	8月12日 再移転禅堂、庫裡起工式
昭和55年	3月 禅堂、庫裡完成
昭和56年	1月11日 本堂起工式、6月14日 上棟式
昭和57年	5月2日 落成慶賛法要
昭和60年	11月17日 禪昌寺創建370年記念法要
昭和63年	3月10日 泰賢大本山永平寺へ安居、10月 冬安居首座に任ぜられる
平成元年	12月19日 泰賢伝法
平成5年	5月13日 泰賢渡米、8月30日 泰賢副住職辞令
平成13年	10月 地域での交流を目指し、第一回演奏会「Tsukimi in寺」を開催、以後毎年一回開催
平成15年	12月15日 永大供養の合同墓「無量壽塔」建立
平成17年	3月17日 護持会総会にて平成22年5月7日から9日、廿三世の退隠、廿四世晋山式開催が決定

昭和五十二年二月ボーイスカウト広島第十五団結成当時から団の育成に尽力下さった

早い時期に地元の住民と親密になることを考える私は、ボーイスカウト活動を通して地域社会と青少年育成に携わることを考え、昭和四十二年指導者の資格を修得し、昭和四十五年四月ボーイスカウト広島第十五団を結成し、いまではボーイスカウト広島県連盟の中核団として優秀な指導者に支えられているのであります。

五団結成当時から団の育成に尽力下さった方をご理解とご支援を下さった檀信徒の皆様を始め、計り知れないご縁に恵まれた在職四

十五年の感謝は言葉に言い尽くせません。只生かされるままに何をすべきかを一生懸命模索して来た四十五年であつたと思ひます。退隠に当たり心残りに思いますことは、大きな伽藍を残し、その維持管理の負担を後世に残すことを思うと、これで良かったのだらうかと、四十五年の道程の数々を反省するばかりです。有り難うございました。後継者に変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

五団結成当時から団の育成に尽力下さった方をご理解とご支援を下さった檀信徒の皆様を始め、計り知れないご縁に恵まれた在職四

十五年の感謝は言葉に言い尽くせません。只生かされるままに何をすべきかを一生懸命模索して来た四十五年であつたと思ひます。退隠に当たり心残りに思いますことは、大きな伽藍を残し、その維持管理の負担を後世に残すことを思うと、これで良かったのだらうかと、四十五年の道程の数々を反省するばかりです。有り難うございました。後継者に変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

総代会の役目ではなからうか」というご提案を頂いて、昭和四十五年二百軒ほどに増えていた檀信徒のご理解と、当時広島市議会議員故植田三三様のご紹介で、広島財界二葉会代表山陽木材防腐（株）（現在（株）サイエンス）社長、故田中真一郎様の呼びかけで広島財界百二十三社のご協賛を頂いて宿泊施設を備えた坐禅道場を建立することが出来たのであります。

た、元戸坂村助役を務められ、後に広島市議会議員として地域の人望を集めておられた、神明政三様の町づくりに賭けられる思いが。禪昌寺を現在地に再移転する縁を結んでくださったのであります。

「この山は昔から戸坂の聖地として言い伝えがある、其れを団地にされるのは忍びない、神社仏閣が建つのなら良いが」と言われて強引ともいえる関係者の説得をされたこと、加えて建設に当たっては第一期の移転復興とは異なり、「何れ自分は死ぬ、後世に良い仕事を遺しておきたい」と言う一念で建設に携わられた、建築家村上和一様との出会いが今日の禪昌寺を創建されたのであります。



くるめ木禪昌寺坐禅堂開単式



現本堂の上棟式

健康増進に皆様にお勧め

私は、菩提寺の住職として何時も、禅昌寺檀信徒皆様の健康と安らぎを見守っている想いから、いろいろな企画をし、皆様に働きかけをしております。そんな中で「道心」二十四号でご紹介しました、「百山登覇達成に感謝」東区在住 清谷克寛様の記述のなかに、二〇〇二年二月に第二回目の山登りの会のお誘いに参加されて以来、それを契機に広島近郊の山歩きを始められ、四年九ヶ月を経て百の山に登覇され、その記録を「一山一山」ことに道標と共に一冊の本にまとめられました。

拝読して感動を覚えました。手前味噌になりますが「互いの健康のために、一緒に山に登ってみませんか」

という軽い気持ちでお誘いをした登山が、百の山を踏破される契機となられたということのみならず。ある時は、登山口を探しながら、ある時は草が生い茂り分かりにくくなった山道に、苦勞されて登られた道程を後に登る人のために懇切丁寧に道標として、また道中の情景やエピソードを織り交せてつづられた内容は、明日にでも私をその山に誘い出される想いで拝読しました。（希望者にはお貸しします。但し護持会会員・参禅会会員・禅昌寺関係ボランティア会会員に限りです。）皆様の日暮らしの参考となればと、小誌四月号・十月月号に手軽に登れる山からご紹介し、此をご覧になった方が、明日は天気が良さそうだと思い立たれて、この「道心」の紙面を頼りに身軽に登山に出かけられることを願ってここにご紹介する次第です。

禅昌寺住職 横山 正賢

武田山(411)・火山(488)

東区在住 清谷 克寛

【山の概要と交通の便】

広島市の北西部に連なる武田山連山の最北端に位置し、まるでお椀を伏せたようになだらかな山容を見せるのが武田山、それとは対照的に急峻な山容を見せるのが隣の火山である。火山から西に進むと、丸山、大茶臼山と続き、一旦三斐峠に下りて、さらに西に柚木城山、鬼ヶ城山と進むと鈴ヶ峰山まで縦走できる。そこで人々は一連の山々を親しみを込めて「広島(南)アルプス」と呼んでいる。なかなかのロングコースであるが、エスケープルートがいくつもあるの、体力にあわせて好きな所から登って、好きな所から下りる事が出来る。

【山歩きレポート】

JR可部線下祇園駅前の道を少し広島方向に戻り、踏切を渡って油合重工の工場の間の道をまっすぐ山の方に向かって進む。信号の先の突き当たりを右折して、谷川沿いに山手に向かって登ってゆくと、武田山憩いの森に到着する。途中、道の両側の田圃では芹が栽培されている。クレソンかと思つて農家の方に尋ねたところ芹だとのことであつた。何も知らない私は、いらぬ事を聞いてまたまた恥をかいてしまった。憩いの森にはいくつかの池があるが、一番上の池の右奥が登山道の取り付きである。

ここからいきなり薄暗く狭く急な登山道となり、小さな谷川に沿って登ってゆく。道は所々深くえぐれて登りにく

いが、急な所にはロープが張ってあり、ロープを掴んでよじ登る。しばらく行くと鞍部に着き、ここを右に行くと馬返し(の広場)である。ここが銀山城の玄関口だそう、その昔、城へ運び込む荷物をこゝまで馬で運び、こゝで馬を返し、ここから先は人力で運び上げたところからこの名がある。鞍部まで戻って道を左にとると、登山道の両側に大きな石が見られるようになるが、これらは全て山頂の銀山城に続く道に人為的に配置された物らしい。その先が、大きな石が積まれている御門跡で、ここからの眺望もすばらしい。尾根道を少し行った所が、千畳敷と呼ばれる本丸跡である。少し広くなっているだけで、矢竹が群生している以外、今では往時を偲ばせる物は何もない。さらに少し行くと大きな岩が現れて来、その上が武田山の山頂で、かつての城郭の跡である。山頂は広場で二段になっており、御守岩をはじめ大きな岩がゴロゴロしている。



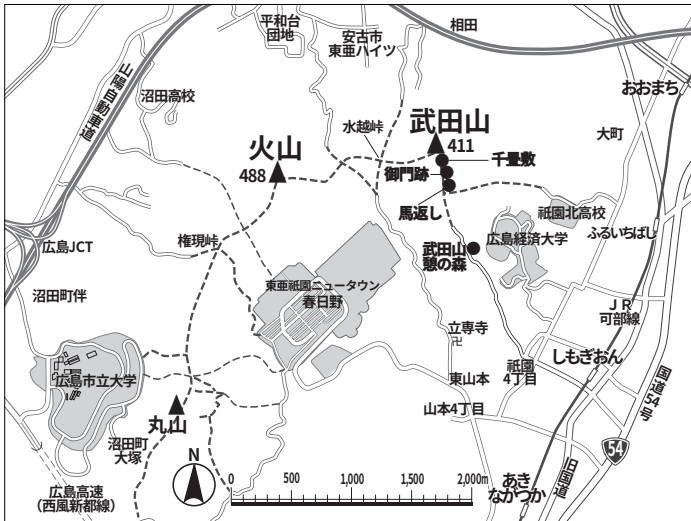
禅昌寺から武田山・火山を望む。



← 急な所にはロープが張ってあり、ロープを掴んでよじ登る場所もある登山道。

↓ かつての城郭の跡で大きな岩がゴロゴロしている武田山山頂。





火山山頂はちょっとした広場になっている。

山頂から尾根道を道標に従って西に進むと、火山である。武田山は麓から眺めるとなだらかに見えるが、予想に反して登山道は急坂である。これは敵の来襲から城を守るための山城の宿命で、憩いの森から馬返しの先の鞍部までもそうであるが、特に山頂から火山に向かう道は急坂で、まるで落ちて行くかのごとくに下ってゆく。途中大きな二つのピークを越え、水越峠の分岐を見送って進むと、やがて火山の山頂である。山頂はちょっとした広場となっており、南側に「神武天皇烽火伝説地の石碑がある。天孫降臨伝説やら神武天皇の狼煙台や」と、何やら日く因縁がありそうだが特に説明等はない。

山頂からは西に遠く大茶臼山を臨むことが出来るが、体力に自信のない方は往路を引き返し、水越峠から東山本の立専寺に下りる事を勧める。水越峠の分岐を右に折れると、道は谷沿いの今にもずり落ちそうな狭い道となる。足下を注意しながら下りると、程なく舗装された林道になり、道路右側の谷はほとんど広くなっている。そのまま車道を下りると、武田家の菩提寺である立専寺の前になる。ガイドブックによると由緒有るお寺とのことであるが、どう見て

もつい最近建て替えられたようで、私にはとても十六世紀に建てられた物とは思えなかった。それよりも面白かったのは、庫裏の方に眼をやると、そこには「武田」の表札がかかっており、なるほど武田家の菩提寺であることだけは確かであった。

体力に自信のある方には、火山山頂から西に広島(南)アルプスの縦走を勧める。

火山山頂から少し下りたところに、展望の良い岩がある。眼下には造成中の大規模団地(春日野団地)、前方には松笠山、右前方には宗箇山が見える。広島市街地から見ると、山肌が大きく削られているのが見えるが、この辺りが見えているのであろう。さらに下ると鞍部が権現峠で、ここを左に下ると東山本方面、右に下ると大原方面へと下りる事が出来る。しかし平成16年に登った時にはここに場違いなまでに大きな通行止めの看板が設置されていて、ここから東山本方面へは下りる事が出来なかった。団地の造成工事に伴う発破作業のためであるが、通行禁止は平成18年4月9日に、既に解除されている。

ここから先はいくつかの小さなピークのアップダウンを繰り返しながらの道であるが、最後のピークはピークと言うには惜しいと思っていたら、石山(426)と言う名前が付いているようだ。そのピークをさらに進むと道は平坦になり、あちらこちらに分かれていくつかのパーティが昼食を摂っておられるので、ここが丸山の山頂かと思ったが、三角点が見当たらない。とりあえず先に進むと、三角点があり、その直ぐ先

にフェンスで囲まれた大きな反射板がある。反射板には畑中継基地と書いてあるが、どうやらこの辺りが丸山の山頂らしい。丸山からの道はなだらかで、右手に広島市立大学のキャンパスや西風新都心、ビッグアーチを中心にした広域公園が、左手には宗箇山を見ながら進むと、左側に宗箇山方面への分岐があり、その先が鉄塔ピークである。鉄塔ピークから数分で、突然舗装道路に下りるが、そこが畑中である。この舗装道路は、右に行くとそのまま大茶臼山山頂の中継基地まで続いているようである。舗装道路に出て、左側にちょっと行つたところが峠の一番上で、道が少し広くなつており、何台かの車が停められている。峠の駐車スペースの右前方に、フェンスの途切れたところがあり、そこにテープが巻いてあり、三段ほどのコンクリートの階段が付いている。ここが大茶臼山への取り付きである。やがて前方に大きなアンテナが四基見えてくるが、三番目のアンテナの所に三角点があり、ここが大茶臼山の山頂である。

三番目のアンテナの先で登山道は終わり、一旦舗装道路に下りる。舗装道路右側のガードレールに赤いペンキで矢印が書いてあるので、そこをまたいでコンクリートの法面の下の細い道を行くと、その先で登山道に続いている。直ぐ先に己斐峠方面と五月が丘方面の分岐があるので、己斐峠方面に下りる。己斐峠からさらに鈴が峰山まで縦走すると広島(南)アルプスの全行程走得である。

◆道心趣味の会◆

短歌

- 青に透く空を伝いて上がる月
満ちて明るき黄なる十五夜
- つぶやきて言の葉ひねもす並べかえ
ついに一首も得ずで終われり

東区 矢野 淑子

俳句

- 木の芽もし 声揚ぐるなら 谿吼えむ
- 春の海 藍碧翠 手に掬ふ
- 木や草や 蟲の言葉で ハルと言ふ
- いくつもの 橋をくぐりて 春の川
- 雛の夜姉妹昔のまま座せり
- 啓蟄の人形展や賑わいぬ
- 禅の寺春ひたたと牡丹の芽

廿日市 伊藤 順二郎

東区 青笹 俊枝

◆行事報告◆(二月～三月)

- 平成十九年元旦
・新春坐禅会
年々参加者が減るのが寂しい。
・新年ご祈祷法要
年ごとにご家族連れが増えて賑
わった。
- 二月二十八日(水)
・青山俊董老師講演会
百人を超える聴講者で会場一杯
に賑わった。

- 三月十七日(土)
・彼岸法要・護持会総会
当山二十三世正賢住職の退隠式
と、二十四世泰賢新命住職の晋山式
の日程が発表された。

◆行事案内◆(四月～六月)

●檀信徒交流登山

四月二十二日(日曜日)
行き先 向原「鷹ノ巣山」標高九二
二米

集合場所 広島駅北口ホテルグラン
ビア前バス停(午前八時集合、午後
四時帰着)
持ち物 弁当・間食・水筒・ストッ
ク・軍手等必要と考えられる物
参加費 参加人数により割り勘とし
ます。コースは初心者向きコースで
す、お揃いでご参加下さい。

●檀信徒交流コンサート&懇親会

五月五日(土曜日)午後五時より
ピアノ伊藤 優・バイオリン佐田大
陸(二人とも桐朋学園大学四年生)
懇親会はワインパーティー(他の飲み
物もあります)ご家族でご参加下さ
い。詳細はお寺にお問い合わせ下さ
い。
※檀信徒交流コンサートへの参加
は、禅昌寺護持会・坐禅会・ボラ
ンティアの会員に限ります。

●毎月定例行事

- 上田宗箇流茶道稽古日
毎月一回 第二又は第四金曜日の

予定 午後二時から
※お抹茶と和菓子を楽しみむつも
りでご参加下さい。

●御詠歌の会

第二金曜日午前十時より自主練習
第四金曜日午前九時より講師を招い
て練習 昼まで

◎茶道の稽古及び御詠歌の稽古は講師
の都合により変更する場合もありま
す。初めて参加される方は、お寺に
電話にてご確認下さい。



御詠歌練習風景

●毎週定例行事

- 暁天坐禅会 月曜日～金曜日
毎朝午前五時十分～六時まで

●水曜坐禅会

午後七時より坐禅・茶話会

●婦人坐禅会 毎週金曜日

午後一時より坐禅・茶話会 終了三時
(第二金曜日のみ坐禅の後、写経)

●日曜坐禅会 第一日曜日午前九時よ

宗教法人禅昌寺役員更新(就任順)

- 代表役員 横山正賢
 - 責任役員 副住職 横山泰賢
 - 五十嵐靖雄 原一彦
 - 斎藤昭夫 高瀬正則
 - 石田英雄 内山 浩
 - 住田和士 伊藤 潤
 - 西原英治 山下敏之
 - 茅原 愿 中山俊郎
- 禅昌寺護持会理事会は右記の方々の
兼任と田中春江・中谷テル子で
勤められます。

日光山禅昌寺二三世退隠・二四世 就任記念事業奉賛会

- 会 長 住田和士
- 副 会 長 伊藤 潤
- 事業委員長 高瀬正則
- 監 査 計 山下敏之
- 推進委員 茅原 愿
- 石田英雄 内山 浩
- 中山俊郎

原稿募集

皆様の随筆、旅行記、体験談、趣
味の短歌俳句など何でも結構です。
お寄せ下さい。